

かけはし

会報 65 号 発行: 特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人: 内藤 孝子

事務局: 〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 パロール代々木 415

TEL/FAX: 03-6276-8985 E-MAIL: jimukyoku@jpald.net URL: <http://www.jpald.net/>



全国LD親の会設立 20 周年を迎えて

NPO法人全国LD親の会

副理事長 丹藤 登紀子

全国LD親の会は、1990年2月に活動を始めています。「学習障害(LD)児の教育を考えるシンポジウム」が開催されたという新聞記事を見て、就学後の息子に対する教育に明るい希望を持った事を昨日の様に思い出します。そのニュースは私の親の会活動の原点であり、セピア色をしたその記事の切り抜きは、引出しの中で今も輝いています。

それから早いもので20年がたちます。この間、諸先輩など親の会の会員の活動や応援して下さる学識者や関係機関のお陰で、LDなど発達障害児・者への支援が確立されつつあります。しかし、会員の子どもの年齢や所属も多様化してきたことから、親の会として発信していく問題は山積みにあるのが現実です。

だからこそ20周年を機に、この20年の活動から見えて

くるものを探り、パワーを養う事が必要だと感じています。「山川異域、風月同天」という中国の有名な詩(ことば)があります。これは、地域や場所が違っていても風と月は同じ天にある、という意味です。違う場所にいても、同じものを見ているわけです。この詩は、全国の絆を感じさせてくれます。

現在、全国LD親の会は、約3,200人が所属している大所帯になりました。地域により支援の差があり、苦戦している保護者もたくさんおられると思います。しかし、同じ月を見て同じ空を仰いで活動をしている3,200人の仲間がいる事に勇気づけられましょう。そして繋がっていきましょう。

目指すものは、「LDなどの発達障害がある人およびその家族の人権が守られ、どの地域にいても生き生きと暮らす事が出来る社会の実現」です。

私たちの周りには子ども達や家族が幸せになれるように、応援して下さる方がたくさんいらっしゃいます。そのことに感謝しつつ、子ども達に寄り添いながら、気持ち新たに皆様と共に頑張って活動していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

全国LD親の会設立 20 周年記念フォーラム

「発達障害者支援における NPO・親の会等の役割 ～全国LD親の会のこれまでとこれから～」

日時: 2010年2月28日(日) 12:50～15:45

会場: 横浜市社会福祉センター 4F ホール

参加費: 無料

趣旨: 全国LD親の会設立20周年を記念して、この20年間の発達障害者支援の進展や当事者団体として親の会が果たしてきた役割を振り返り、今後の発達障害者支援の推進において、親の会やNPO等がそれぞれ果たすべき役割、協働のあり方などについて、親の会、関係団体、参加者とともに考えていきます。

(社会福祉事業研究開発基金助成金事業)

プログラム: 開演挨拶・全国LD親の会のあゆみ(内藤 孝子・山岡 修)

記念講演 上野 一彦 (一般社団法人日本LD学会理事長)

講演 石塚 謙二 (文部科学省特別支援教育課調査官)

トーク・セッション 「発達障害者支援における親の会やNPOの役割～これまでとこれから～」

上野 一彦、石塚 謙二、内藤 孝子、山岡 修 (司会)丹藤 登紀子

(詳細は同封の、別紙チラシをご覧ください。)

《懇親会》

日時: 2010年2月28日(日) 16:00～18:00

会場: 横浜市社会福祉センター 10F 「エイチバイスリー」

参加費: 3,000円

申込: NPO法人全国LD親の会事務局 jimukyoku@jpald.net (親の会ごとまとめて申し込んでください)

発達障害を含む特別支援教育におけるNPO等活動体系化事業（文部科学省）

「特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業」

NPO法人全国LD親の会では、文部科学省から平成21年度「発達障害を含む特別支援教育におけるNPO等活動体系化事業」として委託を受け、特別支援教育支援員の養成、保護者・学生等のボランティアの養成を行うことにより、発達障害等の障害のある児童・生徒への支援の充実、特別支援教育の推進、保護者のエンパワメント、障害のある幼児児童生徒に対する社会一体となった支援の充実に資することを目的とした事業に取り組んでいます。

この事業の一環として、いよいよ、1月から特別支援教育支援員養成講座を開始します。今回の講座は、渋谷区教育委員会のご協力を得て実施し、渋谷区の現職の学習指導員の方、一般の方(全国LD親の会のHPや関東ブロックの親の会等を通じてお知らせしました)の募集を行いました。

本講座の講師陣は、日本LD学会、特別支援教育士認定協会のご協力を得て、LD学会理事長の上野一彦先生をはじめ、特別支援教育士SVの有資格者等を中心としています。特別支援教育支援員、学習支援員(学習指導員)、介助員の方や目指す方に最適なカリキュラムを用意することができました。

1. 講座の種類

(1) 支援員コース(特別支援教育支援員コース)
 [講習:2日間(12時間)+現場見学(1日)]
 特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、保護者等に対する相談支援が行える者の養成

(2) 学習支援員コース(特別支援教育総合支援員コース)
 [講習:3日間(17時間)+現場実習(1日)]
 特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、学習支援、保護者に対する相談支援が行える者の養成

2. 実施主体

主 催:NPO法人全国LD親の会
 (文部科学省委託事業)
 協 力:渋谷区教育委員会

3. 日時

講習-第1日 2010年1月23日(土) 9:00~16:15
 (支援員コース・学習支援員コース共通)
 講習-第2日 2010年1月30日(土) 9:00~17:00
 (支援員コース・学習支援員コース共通)
 講習-第3日 2010年2月13日(土) 9:00~16:30
 (学習支援員コースのみ)
 実習・見学 2010年2月中旬~3月上旬の1日
 (支援員コース・学習支援員コース共通)
 (ただし、現在、学習支援員(学習指導員)として勤務されている方は、他校見学またはレポートのみの提出となる場合があります。)

4. 会場

<講習>
 渋谷区教育センター
 住所:神宮前3-12-8
 (ケアコミュニティ・原宿の丘内)
 交通:JR原宿駅・地下鉄明治神宮前駅徒歩約12分
 地下鉄表参道駅・外苑前駅徒歩約8分
 <現場実習・見学>
 渋谷区内の小中学校

5. 対象

- (1) 特別支援教育支援員の方、ないし、特別支援教育支援員を目指す方
- (2) 資格要件
 支援員コース=なし
 学習支援員コース=教職経験2年以上、ないし、同等の経験を有する方
- (3) いずれのコースも、全日程を出席できることが条件となります。

6. 募集人員

一般応募の方:15名程度

7. 修了証の交付

全講習、実習(見学)を受講し、レポートを提出いただいた方に、修了証を交付します。

【講座プログラム】

第1日 支援員コース・学習支援員コース共通

	科目
1	オリエンテーション
2	特別支援教育支援員としての業務や心構え
3	特別支援教育概論
4	主な障害の特性の理解
5	学校・学級での支援の仕方、担任との連携の仕方

第2日 支援員コース・学習支援員コース共通

6	社会性・コミュニケーション・行動面の困難とサポート方法
7	子どもへの対応の基本
8	障害のある子どもの心理
9	自立生活面・学校生活面での困難とサポート方法
10	ロールプレイング、グループ討議
-	終了式(除く、学習支援員コース)

第3日 学習支援員コース

11	学習面の困難とサポート方法①国語
12	学習面の困難とサポート方法②算数
13	ロールプレイング、グループ討議
-	終了式(学習支援員コース)

第4日 (日程適宜)

14	学校見学 (半日:小学校を予定しています。1グループ 3~4人)
----	----------------------------------

発達障害児のためのサポートツール・データベース事業



2009年度から2011年度までの3年間の予定で、「発達障害児のためのサポートツール・データベース事業」として、①教材・教具、実証データの公募と教材・教具の開発 ②Webサイトの改良 ③研修会の実施の3点に取り組んでいます。全国LD親の会の役員と、教員・作業療法士等の外部協力者により運営委員会を組織し、上記3点について話し合いながら事業を進めています。

1、教材・教具、実証データの公募

「発達障害児のためのサポートツール・データベース(教材・教具DB)」(<http://www.jpald.net/research/>)を充実させるために、現在、サポートツール(教材・教具)を公募しています。特別支援教育や発達障害者支援に関わりのある学会や士会の会員の方々から、手作り、市販等の未掲載の教材・教具や、それらを使用した際の実証データをお寄せいただいています。

9月5日(土)に、1回目の公募(2009年7月末締切分)についての審査会を行いました。寄せられた案件につき、実証データの内容を審査し、データベース掲載に向けて準備を進めています。

2回目の公募審査は、2009年12月末までに応募のあった実証データについて、2010年1月30日(土)に行う予定です。尚、サポートツール(教材・教具)の情報や使用した際の実証データは、今後も公募を続けていきます。

2、Webサイトの改良

■データベースの再構築

2009年11月、データベースを使いやすく再構築しました。新機能として、「文字列検索の追加」「検索条件の機能拡張」「教材写真の表示機能」「動画・ネットショップサイトリンク機能追加」「一覧表示機能改修」「一覧表示ページング機能の追加」「詳細表示機能追加」を加えました。

また、「区分などのマスタメンテナンス機能の追加」「マスタ化による全てのデータの見直し」といったデータ整備も行っています。

データベースに掲載しているサポートツールの写真撮影も進めています。具体的で、よりわかりやすいデータベースにしていく予定です。

■データベースへのサポートツール掲載追加

「発達障害児のためのサポートツール・データベース(教材・教具DB)」は、子どもが抱えている具体的な困難から有効と思われるツールを検索することができるシステムです。現在450件程の「子どもが抱えている困難」を掲載しています。今後も、掲載数を増やしていくとともに、サポートツール(教材・教具)の実証も進めていきます。一人ひとりの子どもの特性に合わせたサポートツール(教材・教具)の使い方の参考となるようなデータベースを作っていく予定です。

3、サポートツール全国キャラバン 2009

「教材教具研修会」

多様なニーズを持つ発達障害のある子ども一人ひとりに合わせて、教育現場や家庭生活における教材・教具の使い方の工夫とサポートの仕方を検討する研修会を全国各地で開催しています。

■「教材教具研修会」in 新潟

「発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の具体的方法」

2009年11月1日(日)、新潟市総合福祉会館の大集会室において、「新潟いなほの会—発達障害児者親の会—」と共催で開催しました。参加者は71名でした。感覚統合学会や新潟県作業療法士会のご協力のもと、充実したプログラムとなりました。

講演1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」

～使い方が変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏(堺市立日置荘小学校)

講演2「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

講師 嶋谷 和之 氏(大阪市更生療育センター)

講演後に、ワークショップを行いました。子どものテストの間違え箇所や姿勢などから、子どもの特性を分析し、具体的な支援を考えていく内容で、大変好評でした。今回の研修会報告は、日本公益図書館に、成果物として登録・公開しています。(<http://npil.canpan.info/>)

■「教材教具研修会」in 佐賀のご案内

2010年2月21日(日)10:00～16:30(9:30開場)

会場:佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター アバンセ 4階 第3研修室
共催:「元気塾」親の会(佐賀県発達障がい児・者の会)

プログラム	
10:00	開会挨拶・研修会の概要説明
10:20	講演1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」 ～使い方が変わる教材の有効性～ 講師 山田 充 氏(堺市立日置荘小学校)
12:50	講演2「作業の工夫で子どもたちを元気に！」 ～作業療法士が提案する教材教具と支援方法～ 講師 辻 薫 氏(大阪府作業療法士会)
14:10	ワークショップ
16:20	質疑応答

■来年度の研修会開催予定

・秋田 2010年5月前後 ・岐阜 2010年10月前後
・徳島 2011年2月前後

*2011年度も、北海道や北陸、関東での研修会開催を実施していく予定です。

日本LD学会第18回大会 報告

日時:2009年10月10日(土)～12日(月・祝)

場所:東京学芸大学 小金井キャンパス

【大会テーマ】

特別支援教育における持続可能な教育実践を！



◇親の会の企画シンポ

日時:10月11日10:30～12:00 会場:N棟4階・N410
(テーマ)

特別支援教育・発達障害者支援の次なる課題

～高等教育における支援、職業移行の支援～

- (話題提供) 内藤 孝子 (全国LD親の会)
- 西村 優紀美 (富山大学)
- 望月 葉子 (障害者職業総合センター)
- (指定討論) 藤井 礼一 (厚生労働省)
- (司会) 丹藤 登紀子(全国LD親の会)

親の会の企画シンポジウムは、同時進行のプログラムがいくつか重なっていた中で、50名弱の参加者がありました。

本シンポジウムは、LD等発達障害のある学生の自立・社会参加にむけた高等教育機関での修学支援、職業への移行支援の課題と展望についてという企画趣旨を設け議論を深めました。

2006年に実施した全国LD親の会の会員調査(LD等の発達障害のある高校生の実態調査)で、高校生の回答の4割が大学への進学希望で就職希望を上回っていることが分かり、また同時期に行った18歳以上の子どもを持つ会員調査(教育から就業への移行実態調査報告書Ⅱ)では、大学等への進学者が5割を超えていたことが分かりました。特別支援教育の進展に伴い、数年後にはLD等の発達障害のある人の大学等への進学はさらに増えることが予想され、この事を踏まえた話題提供が議論の中心となりました。

話題提供として、まず内藤理事長から「LD等の発達障害のある人の高等教育の状況—教育から就業への移行調査Ⅱ」として2006年4月～7月に18才以上(高卒相当)の子どもを持つ会員対象の調査結果から、高等教育を選択した人の現状について報告がありました。続いて、富山大学保健管理センターの西村優紀美先生から「富山大学における発達障害学生の支援メニューと心理教育的サポートの一例」として話題提供がありました。富山大学学生支援センターは2008年に設置され、発達障害学生を核とする社会性・コミュニケーションに困難のある学生の包括的な支援(トータルコミュニケーション支援)を行っています。

様々なケースがある中で、学生が抱える困り感に合わせた手づくり支援を行っている様子と、自己理解につながる心理教育的関わりの事例を話していただきました。続いて、障害者職業総合センターの望月葉子先生から「職業への移行支援の課題—事例が示唆すること」として高等教育を選択した後に職業への移行支援を行った事例をお話していただきました。それらの事例から特性理解を踏まえた仕事の選択による初職継続を支援すること、特性に関する自己理解支援が不可欠であること、職場で求められる行動様式を体得することが重要であることなどが示唆できるとの話題提供をしていただきました。

3人からの話題提供を受け、厚生労働省・障害者雇用対策課・地域就労支援室の藤井礼一室長から「若年コミュニケーション能力要支援者就職プログラム」の実施状況についてのお話があり、その後討論に入りました。藤井室長から各話題提供者に、さらに詳しい内容の質問がありました。

大学に入学しても単位の取り方に躓いたり、アルバイトに躓いたりなど自尊感情の低下が深刻化する恐れがあり、4年間をどう過ごすかが大きな課題であることがわかり、単なる先送りの4年間ではなく意味ある4年間にしていかなければいけないと思いました。

親の会では、大学を含めた高等教育の現場の中での修学支援、就労支援体制の構築の必要性を発信していくことが大事であると感じました。

また、親として高等教育の期間にサポート機関を上手く使いながら働くという事の自覚を本人が持てるよう、就労の準備を念頭に入れて子どもを支援していくことが不可欠であることを再認識しました。

課題が確認でき、内容の濃いシンポジウムでした。

天候に恵まれ、参加者も2,000人を超えた熱気ある3日間でした。

大会の記念講演として、市川拓司氏(作家)・高山恵子氏(えじそんくらぶ)・上野一彦先生(LD学会理事長)による「発達障害を多いに語る」と題しての鼎談があり、例年にはない試みで、楽しい時間を過ごさせて頂きました。

1日目(10月10日)に京王プラザホテルにおいて懇親会が開かれました。100人程の参加者があり、様々な分野の方のスピーチを聞きながら、おいしく豊富な食事で交流を楽しむことができました。

今回のLD学会で、ポスター展示や控室の準備、待機、書籍販売や親の会の親睦会などにご尽力頂いた「けやき」「にんじん村」「くじら」の方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。(丹藤登紀子)

◇親の会ポスター展示

力作が揃いました！

親の会用にポスター展示および書籍販売のコーナーと控え室用のコーナーのスペースを用意していただきましたので、東京の親の会(にんじん村・くじら・けやきの3団体)が窓口となって、準備から期間中の当番、後片付け等を担当させていただきました。

あらためて、会場をご提供いただいたLD学会関係者の方々と、早朝からご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

ポスター展示へのエントリーの呼びかけに、全国各地からのお返事をいただき、結果13団体14枚のポスターを展示することとなりました。この数字だけから想像すると、「少ないかなあ・・・」と思っていましたが、すべての作品がプロ級の仕上がりで、それぞれの活動の様子を、自信を持って丁寧に紹介してくださっているものばかりで、本当に感動いたしました。

LD学会の会場の中に、親の会のコーナーを設けていただけたということは、活動を広く関係者一般に知っていただくという貴重な場として、最大限利用できるということであり、今回のそれぞれのポスター内容から考えると、その目的は十分に達成されていると思います。しかし、大会には親(親の会会員)の参加そのものが少ないように感じ、全国各地の仲間の活動の様子をお互いに交換し合うところまではいっていないように思うのです。この力作のポスターたちが、再び一堂に会する機会がないまま終了してしまうということは、とても残念です。それほどに素晴らしい、工夫と手間と愛情のいっぱい詰まったものばかりだったことを報告させていただきます。

ただ一点、親の会のコーナーの壁一枚隔てたお隣では、ポスターによる研究発表の会場となっており、発表者たちの熱弁と、身動きも取れないほど多数の参加者たちの熱気が溢れていたのに比べ、こちらは少々閑散とした

印象でもありました。

研究発表に参加後、私たちのコーナーに足を運んでくださった方から、「こちらでは発表はないのか？こんなに立派なポスターなら発表(説明)したい会があるのではないか。」という意見もいただいたと聞いています。気持ちを込めたポスターでも、実際に気持ちを伝える力は「人」には敵わないのです。会場設営の仕方とあわせて、今回窓口担当としてそのあたりの工夫に配慮がなかったことを反省すると共に、今更ですが、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

控え室へも、お立ち寄りくださった皆様ありがとうございました。各地のお土産をいただき、ご配慮に感謝いたします。



◇親の会懇親会

11日(日)午後6時から、JR中央線武蔵小金井駅近くの居酒屋にて開催いたしました。学芸大学からはバス便もあり、駅前の気軽な会場が用意できたのですが、決定するまでには、国分寺駅の方が便利ではないか、参加人数や予算に見合う店はないか等と何度も話し合いを持ち、けやきの「おやじの会」の苦労の甲斐もあって、24名の参加を得ての懇親となりました。本当に、遠くからご参加くださって、ありがとうございました。また、内藤理事長はじめ理事の皆様、さらには親の会シンポジウムにご出演くださった障害者職業総合センターの望月葉子先生にもご出席いただきました。2時間はあっという間の短いものでしたが、皆様からそれぞれお話をいただき、懇親を深めることができ、有意義な2時間だったと思います。もちろん語り足りないメンバーで二次会へ向かったことは言うまでもありません。

後日の報告では、「全国おやじの会」開催の話が出たとか出ないとか・・・？やはり仲間はいいなあと思いつつ、以上で報告とさせていただきます。

(LD親の会「けやき」 三輪)

図書館の障害者サービスの充実に関する要望書を提出し、大きな成果がありました。

JDDネットからの緊急提案を受けて、全国LD親の会では10月26日(月)付けで、文部科学大臣宛に「著作権法改正に伴う図書館の障害者サービスの充実に係る要望書」を提出しました。

今回の要望書は、過日成立した「著作権法の一部を改正する法律」に視覚障害者等、聴覚障害者等への情報提供を促進する内容が含まれていることから、「複製等を行える事業者」としての学校図書館の範囲も、特別支援学校だけでなく、対象者の多くが通う通常の学校の図書館にまで広げてほしいという内容です。

【要望事項】

1. 視覚障害者等のための複製等(法第37条第3項関係)、聴覚障害者等のための複製等(法第37条の2関係)法において複製等を行える事業者は、「政令で定めるもの」としており、その範囲について、現行の著作権法施行令では、学校図書館については、特別支援学校(視覚障害者である児童又は生徒に対する教育を

行うものに限る。)に設置された図書館に限定しております。これを全ての学校図書館に範囲を広げることを要望します。

〔改正案(要望案)〕

学校図書館法(昭和二十八年法律第百八十五号)第二条に定める学校図書館の設置者

この要望の結果、11月13日に公表された政令案に、「学校図書館」が入りました。当初の政令案には学校図書館が入っていないという情報を得て、緊急に要望を行ったもので、ギリギリのタイミングでしたが、極めて効果的な要望書となりました。これで、政令が案通り確定すれば、全ての学校図書館で、複製等が可能となります。

一方、当初の政令案に学校図書館が入っていなかった事は、著作権法改正への対応について、当事者団体としての取り組みが不十分であった事を示しており、反省すべき点と認識しています。

教科書バリアフリー法、著作権法改正に対する全国LD親の会の取り組み方針

教科書バリアフリー法や著作権法改正に対する全国LD親の会の取り組みについて、理事会の見解をまとめたので、掲載します。

*****○*****○*****

平成20年の「教科書バリアフリー法」の制定、平成21年の「著作権法の一部改正」は、視覚障害や視覚認知に困難を持つ人にとって、極めて大きな前進であり、大変喜ばしいこととして歓迎するとともに、法施行・改正にご尽力いただいた関係者の皆様に敬意を表します。

全国LD親の会は、発達障害や弱視等の視覚障害、ディスレクシア等による視覚認知の困難、その他の障害のある児童・生徒のために、バリアフリー化された教科書を使った教育支援の輪が広がっていくことは、子どもたちが教育を受ける権利を保障するためにも急務であり、なによりも大切なことと考えています。

また、上記のような障害や困難を持つ人が、より身近なところで支援を受けられるようになること、複製・デジタル化・音声化等の支援手段についても、多くの選択肢の中から、個々の特性に応じて選択できるようになることが大切であり、一つの手法・技術に偏ることなく、多様な支援手段の開発や普及が広く進むことを望んでいます。

特にこの分野については、「教科書バリアフリー法」の

制定、「著作権法の一部改正」を受け、IT技術の目覚ましい進展を受けて、新たな手法・技術の開発や研究が急ピッチで進められており、選択肢が広がっていくことが期待されています。これは、1~2年前には考えられなかった状況の変化であり、全国LD親の会としても、従来の対応や見解を見直す時期にあると考えています。

全国LD親の会はLD等の発達障害のある人や家族のための当事者団体であり、あくまでも「当事者支援」を主眼とした活動が大切です。改めて原点に立ち返る必要があると考えます。

法律の制定や改正の趣旨が、一人ひとりの困難を持つ人の支援に生かされることが望まれます。そのため、全国LD親の会は発達障害関係の当事者団体として、日本発達障害ネットワーク等とも連携し、関係省庁や研究機関等とも幅広く情報交換をしながら、この問題について、主体性をもって、取り組んでいく方針です。



●JDDネット第5回年次大会 報告

日時：2009年12月12日(土)、12月13日(日)

会場：成蹊大学(東京都武蔵野市)

「発達障害:共に生きる豊かな明日 ～理解の段階から、個性尊重の社会の実現をめざして」を大会メインテーマに開催されました。12日は第2回研修会(職能団体企画の講習会)と懇親会、13日は7会場で、講演、シンポジウムなど25のプログラムが行われ、参加者1,100名、スタッフを入れると約1,300名の盛大な大会となりました。(丹藤)

上野一彦先生が大会長、山岡が大会事務局長を務め、JDDネットの加盟団体関係者だけでなく、成蹊大学の先生や学生さんにも会場設営や案内などご協力いただき、スムーズに運営することができました。特に、大会準備に事務局をお借りして、全国LD親の会の皆様には大会スタッフとして多大なご協力をいただきましたことを感謝申し上げます。(山岡)

[感想]

13日に開催された第5回年次大会に参加しました。同時に7会場で講演・討論が開かれており、午前中は田中康雄代表と上野一彦先生の講演を、午後からは全国LD親の会のシンポとJDDネットの会員討論を選択し参加しました。会員討論では自前で全国組織を持たないエリア会員から運営への参加とネットワーク活動の充実を望む声が多く、執行部が苦勞して行っている官庁への働き掛けの重要さはまだ理解されていない様で残念でした。今後JDDネットが地方まで浸透していくことに期待しています。(永井)

◇親の会の自主企画 12月13日(日)13:00~14:30

LD等発達障害のある人の教育から就業への移行

-LD親の会の実践から-

司会：丹藤登紀子(全国LD親の会)

話題提供:内藤孝子(全国LD親の会)、

沼田夏子(いなほの会)、新堀和子(けやき)

指定討論:松為信雄(神奈川県立保健福祉大学)

[感想]

・親の会シンポには45名の参加があり、全国LD親の会の調査の報告と東京(けやき)と新潟(いなほの会)の就労への移行支援の活動報告は先進的取組であり、注目を集めていました。これらの活動が支援センター等に引き継がれていくことを望みます。(永井)

・内藤理事長より2006年度の調査の報告の中で、地域のごとの『障害者手帳の取得率・一般就労の比率』を『有効求人倍率』と対比したグラフで説明していただき、求人倍率が半減する厳しい雇用情勢の今、「これまでのようには、いかないのだ！」と改めて危機感を持ちました。「会の在宅の青年を何とかしたい！」という思いで…。」という沼田さんの言葉。中高生の時期にキャリア教育や移行支援のための具体的な実践をできることから取り組んでいかなければ強く感じました。(多久島)

◇JDDネット懇親会報告

12月12日、17時半より懇親会が開かれました。豪華な料理を前にして、各加盟団体の紹介をはじめとして、楽しい交流ができ、会場は和やかな雰囲気になりました。(新堀)

行政関連—平成22年度予算と事業仕訳

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

1. 平成22年度予算の編成について

例年、国の予算は、8月頃に省庁としての予算案を取りまとめ(概算要求)、12月に各省庁と財務省折衝を経た政府案(内示)が固まり、概ね3月までに国会の承認を得て確定するというのが大まかな流れでした。しかし、8月の総選挙で政権が交代し、この流れが大きく変わりました。テレビでも放映されましたが、例年の財務省と各省庁の折衝の代わりに、「事業仕訳」が行われ、一部修正の上、12月中には予算内示額が確定する見込みです。

2. 事業仕訳の主な結果

文部科学省関係では、「義務教育国庫負担」の要求額の中に、教員定数改善が含まれており、この中に通級による指導=1,418名増、特別支援学校のセンター的機能強化=313名増の要求が含まれています。この要求は、21年度と比べると大幅な増加であり、事業仕訳の対象となったことから、大幅に削減されるのではないかと心配していました。

しかし、11月25日に行われた事業仕訳では、全体として、前向きな議論が展開されました。この中で、藤原和博氏より、「先生が忙しくなっているのは事実で、中でも特別支援教育は絶対に対応せねばならない、というくらい緊急度が高い」、また、枝野議員から、「在籍率が10%近くに及ぶとされる発達障害のみならず、聴覚障害など従来からの障害種への対応でも現場は大変苦勞されている。これら障害種についても技術進歩等により支援・対応の可能性が広がっており、金額は少ないかもしれぬが、大変重要」等の意見が出され、結果として、国と地方の在り方について見直すという注文は付きましたが、大幅な金額削減にはならなかったという、意外でありかつ喜ばしい結果となりました。

厚生労働省関係では、JDDネットでガイドブック等を作ったこともある「障害者自立支援プロジェクト」が、不祥事に利用されたという事案の発生の影響もあり廃止となりましたが、発達障害関係の予算については、事業仕訳の対象になったものも少なく、全体としては個々に金額は抑えられたようですが、当初の概算要求の項目を確保できたようです。22年度は「ペアレント・メンター養成支援事業」等が新規で実現するのではないかと思います。いずれにしても、従来とは予算編成の仕組みが大きく変わっています。今後、当事者団体としての取り組みも変えていく必要があります。(山岡 修)

近畿ブロック紹介

これが自慢です！

滋賀LD親の会「トムソーヤ」

トムソーヤはLD等の発達障害のある子どもたちの健やかな成長と自立を願い、1990年4月に発足しました。現在、月1回の定例会や年2回の親子合宿、各部(小学部、中学部、高校部)のレクリエーション・学習会などの活動しながら、子どもたちの課題や悩みについて話し合い、親睦を深めています。さらに、滋賀LD教育研究会の先生方のご協力を得て、教育相談会・子どもたちのソーシャルスキルトレーニングなどを実施しています。

最近、特例子会社や就労支援センターの方のお話を聞く機会も多く、学校卒業までに子どもたちが身につけておいた方がよいことや、就労するためにどのような支援が受けられるのかなど、青年期にはいった人たちを視野に入れた活動が増えてきています。また、青年たち本人も毎月1回活動しており、大学学園祭での模擬店出店は毎年の恒例行事になっています。ただ、子どもが青年期になると退会される会員が多く、青年部の活動をどうしていくかは、大きな課題です。

また、JDD ネット滋賀の一員として、アンケートによる会員ニーズの調査、理解啓発のためのフォーラムの開催などを行いました。しかし、発達障害に対する認知度があがるにつれ、県内にいくつかの親の会が立ち上がり、それぞれが独自に活動しているのが現状です。親の会同士が、どのように連携していくのかは、今後の課題となっています。

京都LD等発達障害親の会「たんぽぽ」

現在、「たんぽぽ」は正会員(当事者の保護者)約40名、賛助会員(支援者等)約10名で活動しています。恒例のおしゃべり会は、隔月に実施しています。

テーマを設けずにざっくばらんにおしゃべりをして、日ごろのストレス発散をする月もあれば、「進路について」と題して、高校生以上の保護者が、学校を選んだ基準や、学校に伝えておくべきことなど経験談をお話したり、年に1度の忘年会では、おいしいお酒やお料理とともに、わいわいと盛りあがったり・・・と会員同士の大切な交流の場となっています。

他に、定期的に行っている活動として、月2回の小学生対象の学習サポートがあり、ボランティアでお越しいただいている現役の先生にわかりやすく、学習のヒントをご指導いただき、子どもたちも大変、嬉しそうです。この学習サポートでは、毎回、高校生がお手伝いをしてくれていて、「誰かの役に立つ」という貴重な機会を得ることができています。

年に2回程度、レクリエーションも実施し、夏休みには、広大な公園で遊んだあと、バーベキューを楽しみました。次回は、インスタントラーメン博物館で、カップラーメン作り体験を予定しています。

一方で、子どもたちの年齢が、年々あがってきており、中学卒業後の高等教育・就労に関する勉強会や情報交換が、ニーズとなっていることを踏まえ、これからの活動を充実させていきたいと考えています。

大阪LD親の会「おたふく会」

おたふく会は、来年度に設立20周年を迎えます。会員は2009年12月現在で、正会員302名、サポート会員17名という大きな会です。正会員のうち子どもが18歳以上の会員(自立支援の会「チャンス」として活動している)は、100名を超えました。

活動方針として、①本人にとって今何が必要なのか、親として今何ができるのか、考えて行動していこう ②本人の自立や社会参加に向けて、ひとりひとりのニーズに応じた乳幼児期から就労に至るまでの一貫した支援体制の整備を社会へ求めていこう ③親の子育てを支援していこう ④本人およびその家族がどの地域に住んでいても、人間としての尊厳が守られ、いきいきと暮らしていける社会の実現を目指して取り組んでいこう をあげています。

子どもを中心とした活動は、アドベンチャークラブ、自由にのびのび絵画教室、みんなでトライなんでもキッズ、学習ルーム、和太鼓クラブ、中学生プログラム、高校生プログラム、アンダンテ(青年)などがあります。会員を中心にした活動は、会報発行、学年交流会、地域交流会、進路進学交流会、オヤジ連、サポート会員交流会、運営委員会等です。大阪府下関係諸団体とのネットワークとして、大阪府発達障害団体ネットワークやJDD ネット大阪の活動にも参加しています。昨年度と今年度は、JDD ネット大阪の加盟団体として、大阪府内43市町村教育委員会に対して特別支援教育体制実施状況調査を行いました。昨年度の結果は、日本LD学会第18回大会でポスター展示しました。2010年3月のマッケンジー・ソープ絵画展を皮切りに、来年度は20周年記念事業として、連続講座を予定しています。多くの皆様の参加をお待ちしています。

大阪LD・軽度発達障害親の会「翼」

「翼」は40名弱の、理論より感性、親子でおっとり、ほんわか・そんな会です。各自が教室活動を中心に担当する事で子どもたちから元気もらっています。

それでは、一緒に“まったり”致しましょう。

ウイング(青年・高校)

やりたい事を提案・計画、ゲームをしたり。メンバーはほぼ固定していて安心感があり、とてもいい雰囲気です。心がフワァ〜と綿菓子のようになれます。

小ウイング(小・中)

気さくな交流会を不定期に実施しています。

ウイングスポーツクラブ(青年・高校)

体を動かす機会が減りがちな青年層の為に発足。バラバラだったメンバーも集団意識が芽生えてきた様子。

スポーツ教室(小・中)

ぎこちなかった子どもたちも、先生とあれこれ決めながらこなす中、月に一度のハリキリタイムに変身!

翼教室(小・中)

興味のある事を分かり易く。毎度のトラブルも、お互いが分かり始め、親子の“ホッと空間”をめざします。

演劇教室

一人ひとりの個性を生かした題材に取り組み中。日常から少し離れて過ごせるひと時です。

パソコン教室

Google ブログ、「翼パソコン教室」で検索を。

運営委員会(親の教室?)

青年層の比重が高く、「何で?」と言いつつ青年の親が参加しているのは、親もホッとできる場だから?

兵庫県LD親の会「たつの子」

たつの子は1990年に設立し、今年で20周年を迎えます。会員は正会員・通信会員・賛助会員で構成され、2009年11月末現在の会員数は320名となりました。そのうち高校生は34名、青年も60名となり、会員の3分の1近くの子どもたちが、自立を課題にかかえる年代となりました。そこで、近年は特に「自立」をテーマに力を入れて活動してきました。

兵庫県の事業である「障害者しごと体験事業」は特別支援学校の生徒や福祉施設などの利用者が対象となっていました。今年度よりたつの子も一団体として参加できるようになりました。これにより、高校生・青年の10名が各々の受入企業で「しごと」を体験することができました。

また、昨年度より「自立にむけて」というシリーズの企画として料理教室を開催、今年度も継続しています。自立を目前に控えた子どもたちには必要な経験を楽しみながらできたと思います。

学齢期の子どもたちには本人参加型の企画をたくさん用意しました。夏休みには大型バスでイルカと泳ぐツアーを実施し、幼児から高校生までが学年を超えて楽しいひと時を過ごしました。その他、阪急電車見学会、コリアタウン見学会、たつの子運動会など親子一緒に参加することが増えた1年でした。

また、勉強会の開催にも力を注ぎました。テーマごとに臨床心理士・市教委・フリースクールの先生方をお招きし毎月何かの企画があり活気溢れる1年でした。

来年度、11月14日にはハーバーホールにて竹田契一先生、中尾繁樹先生をお迎えして、たつの子20周年記念講演会を開催予定です。今後も親子の癒しの場、パワーアップの場としてのたつの子であり続けたいと思っています。これからも宜しくお願いします。

奈良LD親の会「パンジー」

1990年、奈良LD親の会「どんぐり」として発足し、2000年に名称を「パンジー」と改め、奈良県内を中心に活動しています。会員数は60名程です。

主な活動としては、会報の発行(パンジー通信・会員限定のプチアド通信)、会員全体の交流会や、小・中高・アド(青年)の各部会で勉強会、施設見学や訪問、また悩みを聞き合い、情報を交換し会員同士の親睦を深めています。その他、運営会議、行政訪問なども実施しています。また土曜会活動(月1回)として、児童部はソーシャルスキルや運動機能の向上を目的としたトレーニングを行っています。青年部や成人部は、本人達が中心でグループ活動を実施し、内容は自分たちで決め、交流会やキャンプ、ワークショップ等を行っています。昨年度は「悪徳商法から身を守るための青年向けワークショップ」で対処方法を学びました。成人部の交流会には、父親がパパボラとして参加しています。全グループにボランティアの特別支援教育士<S.E.N.S-SV>の先生と親が運営に協力しています。

昨年1月、初めての対外向け講演会を、奈良の地で全国LD親の会近畿ブロックと共催しました。演題は「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」、講師は山田充先生(堺市立日置荘小学校教諭)。参加者44名(一般31名、会員13名)。この経験をいかして、次の機会につなげていきたいと考えています。会員達が協力しあい、共に学び合い、励まし合いながら今後も子ども達のためにがんばっていきます。

親の会設立準備を進めています！ 長野県 和歌山県 大分県

●長野県、親の会の設立が決まりました！！

2008年12月のNHKフォーラムの開催を機に、長野県での親の会設立を支援してきました。その後、5月17日のミニ講演会に集まった方の中から、地元の有志を中心に、地元の学校の先生や沼田さん(全国LD親の会監事)が参加し、6月、8月、11月に3回の準備会を行い、会の名称や体制、総会等について話し合い、来年、親の会を設立することが決まりました。

設立総会:2010年5月15日(土)(予定)

会場:長野市ボランティアセンター内

(長野市大字鶴賀緑町1714-5)

会の名称は、長野県発達障害児者親の会「よつ葉の会」を予定しています。準備会の代表は、長野市の小林栄さん。

現在のところ、設立準備には数名が集まっており、チラシを作って親の会への参加を呼びかけたり、毎月第4土曜日に学習会を開催したりして、設立の準備を進めています。

小林さんから、「最初は小さくても良いから、継続して活動できる会にしていきたい。また、出来れば全国LD親の会に加盟したい。」とメッセージをいただいています。

全国LD親の会として、引き続き、設立の支援、設立後の活動支援を行っていく予定です。(山岡)

<連絡先(小林さん)>

E-MAIL sakae-3.13@k5.dion.ne.jp

よつ葉の会ブログ(他の会のブログの1コーナー)

http://blog.canpan.info/uriuri-nagano/category_6/

●和歌山県親の会の設立準備中です！

2009年9月13日(日)、和歌山県民文化会館においてNHKハートフォーラムが開催され、フォーラム終了後の午後4時30分より、保護者や親の会の運営にご協力いただける教員などの専門家を対象に、親の会についての説明会を開きました。和歌山大学の小野次朗先生はじめ、和歌山県の関係諸氏のご尽力により、保護者・教員など合計17名の参加がありました。

第2回目の準備会は、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会主催の特別支援教育公開研修会(和歌山)の開催日時に合わせ、県民交流プラザ和歌山ビッグ愛で行いました。

12月6日(日)14時~17時

「保護者による 子育てトーク & 座談会

ちょっと違う子育てが、おもしろい！」

保護者を中心に15名の参加がありました。全国LD親の会の近畿ブロック役員等らが、同じ保護者としてそれぞれの子育てについて話しました。特別支援教育公開研修会終了後には、和歌山の小学校の先生も会場に来てくださり、個別相談なども行うことができました。

座談会形式で話し合う中で、今後の和歌山での集まりのための連絡係を3名の方が引き受けてくださいました。今回の「トーク&座談会」に参加して下さった方々を中心に、今後、参加者のニーズに沿ったテーマで学習会などを重ねていくことになりました。

次回準備会は下記の通りです。

日時:2010年2月11日(木・祝)

13時30分~16時

会場:県民交流プラザ和歌山ビッグ愛 会議室505

発達障害のある子どもたちとその家族が生き生きと生活していける社会を作っていくために、和歌山県でも協力し合い、助け合える仲間をたくさん作っていけるよう、和歌山県の保護者の方々と話し合いながら、設立準備を進めていきます。(井上)

●大分県の親の会設立準備を進めています！

大分県には、5年前まで全国LD親の会に加盟する親の会がありましたが、会員の減少などにより脱会し、現在、空白県となっています。発達障害に関する関心やニーズが高まりつつある中、大分県でもLD等の発達障害親の会設立準備会を立ち上げようと、取り組みを始めました。

8月26日、大分県発達障害者支援センター「ECOAL」を訪問し、大分県での支援の状況を伺いました。また、同日、大分県教育委員会特別支援教育課も訪問し、他の発達障害の親の会の活動や専門家の先生方について、お話を伺うことができました。

その中で、今年度、県内5ヵ所で開催される、「発達障がいのある子どもの理解・啓発フォーラム」にて、親の会設立準備会への参加呼びかけのちらしを配布して下さることになりました。10月25日の宇佐市での開催を皮きりに、現在第4回まで終了しています。12月14日の豊後大野市でのフォーラムには、北九州LD親の会“すばる”の小林会長と大曲が参加し、呼びかけをしました。次回、国東市でも直接呼びかけをする予定です。

12月4日大分県教育委員会を訪問した折、福祉保健部障害福祉課をご紹介いただきましたので、今後親の会設立に向けてご支援いただければと思っています。

(大曲)

●教育から就業への移行実態調査Ⅲ

アンケートご協力の御礼とお願い

2009年11月から、各親の会の18歳(高卒相当)以上の子どもを持つ会員(保護者)とその子ども(本人)を対象に「教育から就業への移行実態調査Ⅲ」を実施しているところですが、

2005年に施行された発達障害者支援法により、様々な分野で理解や支援が進み始めましたが、実態はどのように変化したのか、今回の調査は、2003年、2006年におこなった実態調査をベースに、上乘せした調査を実施させていただきました。会員の皆様には、同じような調査で、またご負担をかけ、たいへん申し訳なく思っております。

早速に回答をお寄せいただきました皆様、ありがとうございました。まだ、回答を提出いただけていない方は、締切は過ぎていますが、2010年1月末まで、回答を受付けます。一人一人の回答が、理解、配慮、支援に必ずつながっていきますので、趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。(回収率:約30% 12月24日現在) 発達障害のある人が生き生きと暮らしていくためにさらにどのような支援が必要なのか、移行期、成人期の具体的な支援について根拠(エビデンス)を示していくことが重要です。調査結果は2010年度中に、報告書としてまとめる予定です。ご回答いただきました方には各親の会を通して報告書を贈呈する予定です。(内藤)

●全国LD親の会 活動報告

- 7月9日 教科用特定図書普及促進要望書を文部科学省に提出
- 7月14日 厚生労働省、第1回障害支援区分の在り方等に関する勉強会 (山岡) 7/31 9/2
- 7月28日 高齢・障害者雇用支援機構、評議委員会 (山岡)
- 7月31日 障害者の自立支援と就業支援の効果的連携のための実証的研究委員会(内藤) 12/8
- 8月1日 文部科学省から「特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業」を委託
- 8月11日 特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業第1回実行委員会/東京(内藤、山岡)
- 8月13日 かけはし64号発行
- 8月14日 特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業第1回実行委員会/神戸(内藤、山岡)
- 8月24日 長野県LD等発達障害親の会設立準備会(沼田) 11/21
- 8月30日 第3回理事会(補正予算の審議など)
- 9月4日 サポートツール・データベース第1回審査会 (井上育世)
- 9月13日 和歌山県LD等発達障害親の会設立準備会(内藤、井上育世、清水)
- 10月10日～12日 日本LD学会17回大会(東京学芸大学)(内藤、丹藤、山岡、新堀、吉田、多久島、井上育世)
- 10月25日 第3回役員会・第4回理事会(渋谷区 パロール代々木)
- 10月26日 特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業第1回拡大委員会(内藤、山岡、丹藤)
- 10月26日 特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業第2回実行委員会(内藤、山岡)
- 10月26日 著作権法改正に伴う図書館の障害者サービスの充実にかかわる要望書を提出
- 11月1日 サポートツール全国キャラバン2009「教材教具研修会」in 新潟(沼田)
- 11月5日 教育から就業への移行実態調査Ⅲの調査用紙を各会に送付
- 11月30日 発達障害児のためのサポートツール・データベース運営会議(内藤、井上育世)
- 12月4日 第32回全国特別支援教育振興会協議会(丹藤、吉田)
- 12月6日 和歌山県LD等発達障害親の会設立準備会・子育て報告会(内藤、井上育世、清水)
- 12月10日 特別支援教育支援員養成講座 一般公募開始
- 12月11日 特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業第3回実行委員会(内藤、山岡)
- 12月12日 JDD ネット第2回研修会(内藤、丹藤、山岡、新堀、沼田)・JDD ネット理事会(山岡)
- 12月13日 JDD ネット第5回年次大会(内藤、丹藤、山岡、新堀、吉田、沼田、森野)
- 12月13日 大分県LD等発達障害親の会設立準備説明会(大曲)

●ご寄付をいただきました。ありがとうございます。

以前全国LD親の会の加盟団体であった、青森の『LDやAD/HDの子どもを理解する会「いろは丸」』さんから、親の会の解散に伴う会計の残金78,300円の寄付のお申し出をいただきました。理事間で協議の結果、ありがたくお受けいたしました。全国LD親の会の「20周年記念事業」等に活用させていただきたいと思っております。どうもありがとうございます。

親の会の子どもや青年の 作品募集中

全国 LD 親の会では、ホームページで、いろいろな情報を発信しています。(URL:http://www.jpald.net/)

LD 等の発達障害のある人たちが生き生きとした学校生活、自立した社会生活を送れるような社会の実現を目指した親としての活動を主に掲載してきましたが、来年度より

LD 等の発達障害のある人たちが表現した作品コーナーを設けることにしました。全国 LD 親の会 HP の「我ら クリエイター(仮称)」のコーナーに掲載する絵やイラスト、工作、書、陶芸などの作品を募集します。但し、全国 LD 親の会に加盟している各親の会の子どもたちや青年たちの作品に限ります。

たくさんのご応募、お待ちしております。応募方法など、詳しくは、HP をご覧ください。



●第3回理事会報告

日時:2009年8月30日 12:00~12:30 場所:NPO 法人全国LD親の会事務局

出席者:丹藤 登紀子・内藤 孝子・山岡 修、(書面表決)大曲 千代子・東條 裕志

[審議事項]

第1号議案 平成21年度活動方針、活動目的に関する審議(追認扱い)を行い、全員一致でこれを承認した

第2号議案 平成21年度収支予算(案)に関する審議(追認扱い)を行い、全員一致でこれを承認した。

第3号議案 平成21年度 委託事業に関する審議を行い、全員一致でこれを承認した。

文部科学省平成21年度「発達障害を含む特別支援教育におけるNPO等活動体系化事業」の実施について
事業テーマ:特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業

委託締結日:平成21年8月1日

第4号議案 平成21年度補正予算に関する審議を行い、全員一致でこれを承認した。

平成21年度「発達障害を含む特別支援教育におけるNPO等活動体系化事業」の実施にともなう平成21年度収支予算の補正

●第4回理事会報告

日時:2009年10月25日 16:00~16:30 場所:バロール代々木1F 集会室

出席者:大曲 千代子・丹藤 登紀子・東條 裕志・内藤 孝子・山岡 修

[審議事項]

第1号議案 NPO法人全国LD親の会 第3回役員会における審議結果の承認

第3回役員会における審議結果を審議し、全員一致でこれを承認した。

(決議事項)

- ・会員調査「教育から就業の移行実態調査Ⅲ」の実施(2009年11月~12月)
- ・全国LD親の会HPに「かけはし」のページを作成し、「かけはし」62号から掲載する。
- ・全国LD親の会設立20周年事業として、記念公開フォーラム、懇親会の開催、記念誌を発行する。
- ・空白県親の会設立にむけての経費交通費・会場費等は、1県につき、¥60,000~70,000/年の予算で行う。
- ・九州・山口ブロックの名称、範囲について:
名称は「九州ブロック」に変更するが、範囲については、現行どおりとする。
- ・研修会(平成22年6月19日)のテーマは「家族支援」とする。
- ・「著作権法改正に伴う図書館の障害者サービスの充実にかかわる要望書」を提出する。
- ・「LD等発達障害のある児童・生徒のための教科用特定図書等に関する要望書」の再提出は見送る。

●特定非営利活動法人全国LD親の会第3回総会のお知らせ

日時 :2010年6月19日(土)

場所 :国立オリンピック記念青少年総合センター 研修室(東京都渋谷区)

●全国LD親の会設立20周年記念 第9回全国LD親の会公開フォーラムのお知らせ

日時 :2010年6月20日(日) 10:00~16:40

場所 :国立オリンピック記念青少年総合センター 小ホール (東京都渋谷区)

テーマ:「発達障害のある人のライフステージを通じた支援 ~教育から就労まで~」